

■ 主な報道記事

- 「脳梗塞を起こしやすい遺伝子の発見」(平成19年1月8日～13日 毎日新聞・西日本新聞・読売新聞・朝日新聞・日本経済新聞・産経新聞)
- 「『メタボ』の人 歯周病に注意」(平成19年6月10日 西日本新聞)
- 「糖尿病増加についての警告」(平成19年7月27日～平成20年1月13日 毎日新聞・西日本新聞)
- 「糖尿病は万病の温床」(平成19年9月2日 朝日新聞)
- 「(糖尿病は)認知症への影響、極めて大」(平成19年11月9日 聖教新聞)
- 「久山町研究紹介」(平成20年3月3日～3月7日 朝日新聞連載記事)
- 「コレステロールが低いと胃がん」(平成20年3月5日 朝日新聞)

■ 報 告

一般財団法人及び一般財団法人に関する法律の施行に伴う中間法人法の廃止について

法務省民事局広報から抜粋

■ 中間法人法の廃止

公益法人制度改革関連法の一つとして成立した一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の施行(平成20年12月1日)に伴い中間法人法は廃止され既存の中間法人は一般社団法人に移行することになる。

(1)一般社団法人制度への移行

既存の有限責任中間法人は平成20年12月1日から何らの手続きを要せず一般社団法人となる。
既存の有限責任中間法人の定款、社員、理事及び監事は、一般社団法人の定款、社員、理事及び監事となり、改めて定款を作り直したり、理事及び監事を選任し直したりする必要はない。

(2)名称の変更

一般社団法人となった有限責任中間法人は、施行日の属する事業年度が終了した後最初に召集される定時役員総会の終結の時までに、その名称に「一般社団法人」という文字を使用する旨の定款の変更をする必要があるため、その旨の社員総会の決議を得る必要がある。

(3)登 記

既存の有限責任中間法人の登記は、特段の登記申請を要せず当然に一般社団法人としての登記になる。ただし、名称の変更を行った場合にはその旨の登記申請をする必要があり、またその時に役員の登記事項を改める必要がある。

賛助社員としてご支援ありがとうございます

平成19年度は個人4名、団体3団体の方々から合計1,490,000円(平成19年4月～平成20年1月)を頂戴致しております。ここにご芳名を記して心より感謝の意を申し上げます。

個人申込

50口(500,000円)

三井島智子

3口(30,000円)

河野 雄平

喜久村徳清

瀧下 修一

(五十音順 敬称略)

団体申込

5口(500,000円)

匿名 1団体

3口(300,000円)

医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院

1口(100,000円)

大村内科医院

(敬称略)

賛助社員募集

本法人の活動にご賛同下さる方は、賛助社員としてご支援いただければ幸いです。
個人1口1万円から団体1口10万円から、何口でも結構です。詳しくは、法人事務局までご一報頂きますか、または、法人ホームページをご覧ください。

HisayamaLIFE Newsletter 第3号

2008年3月24日発行
編集・発行:有限責任中間法人 久山生活習慣病研究所
(担当:斎藤 史郎)
URL:http://www.hisayamalife.or.jp/ E-MAIL:info@hisayamalife.or.jp

〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原1822-1
(ヘルスC&Cセンター内)
TEL:092-652-3032 FAX:092-652-3075
九州大学内事務局
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1(九州大学医学部内)
TEL:092-642-6284

HisayamaLIFE Newsletter

有限責任中間法人 久山生活習慣病研究所

第3号

2008年3月24日発行

平成19年度の活動

■ 法人本部

会 議

平成18年度 第2回理事会(平成19年3月27日開催)

- 平成19年度予算案の審議
- 社員の入社承認(九州大学病院 腎・高血圧・脳血管内科 講師 北園 孝成)

平成19年度 第1回理事会(平成19年6月5日開催)

第3回社員総会(平成19年6月5日開催)

- 平成18年度決算承認

平成19年度 第2回理事会(平成19年12月4日開催)

- 平成19年度上期活動状況の審議

協賛・支援

- 聖路加国際病院理事長 日野原 重明氏による、久山町の小学生(4～6年生)を対象とした「いのちの授業」。(久山町久山会館:平成19年7月19日開催)

- 九州大学生体防御医学研究所にて外国訪問研究員として久山町研究に参加している上海中医薬大学准教授 張 学礼(Zhang Xueli)氏の支援。(平成19年4月から)



国際シンポジウムで発言する張 学礼氏(別府市)

- 第18回日本老年医学会 九州地方会(清原 裕会長)の主催による、市民公開講座「心血管病を予防して 元気に長生き」の支援。(九州大学医学部 百年講堂:平成20年3月1日開催)



市民公開講座の風景



久山町研究ユニット

健診事業

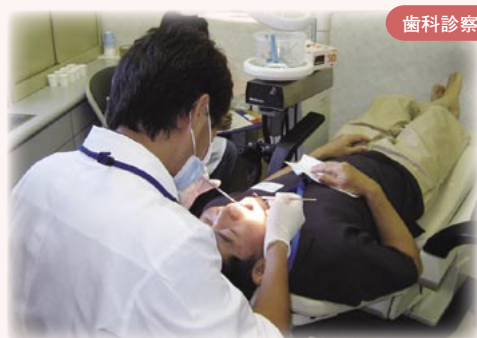
平成19年度の健診の内容 (平成19年6月29日開始)

平成19年度に、40歳以上の久山町全住民を対象とした健診を行った。

2月末日現在の受診者数は3,264人、受診率は75.8%。

【健診項目】

身長、体重、腹囲、腰回、体組成、骨密度、随時血圧、家庭血圧、心電図、Augmentation Index、頸部血管エコー、血液検査、75g経口糖負荷試験(空腹時、負荷後30分および120分)、尿検査、既往症、生活歴、家族歴、服薬調査、栄養調査、身体活動度調査、うつ病調査、内科診察、眼科診察(眼圧、眼底など)、歯科診察



【PCT国際特許出願について】

- 「動脈硬化性疾患関連遺伝子、およびその利用」をPCT国際特許出願。(平成19年4月24日) 脳梗塞と関連のある新規遺伝子を発見。
(Net Genet 39巻、2007年、Hum Mol Genet 16巻、2007年)

【2007年業績: 欧文誌発表分のみ】

- Kubo M, et al. A nonsynonymous SNP in PRKCH (protein kinase C eta) increases the risk of cerebral infarction. Nat Genet 39: 212-217, 2007.
(PRKCH遺伝子の非同義的置換を伴うSNPは脳梗塞のリスクを高める)
- Hata J, et al. Functional SNP in an Sp1-binding site of AGTRL1 gene is associated with susceptibility to brain infarction. Hum Mol Genet 16: 630-639, 2007.
(AGTRL1遺伝子のSp1結合部位にある一塩基多型(SNP)は脳梗塞の発症と関連する)
- Doi Y, et al. Impact of Kir6.2 E23K polymorphism on the development of type 2 diabetes in a general Japanese population. Diabetes 56: 2829-2833, 2007.
(日本人の地域住民におけるKir6.2 E23K 遺伝子多型と2型糖尿病発症の関係: 久山町研究)

- Ninomiya T, et al. Impact of metabolic syndrome on the development of cardiovascular disease in a general Japanese population: the Hisayama Study. Stroke 38: 2063-2069, 2007.
(一般住民におけるメタボリックシンドロームが心血管病に及ぼす影響: 久山町研究)
- Ninomiya T, et al. Prehypertension increases the risk for renal arteriosclerosis in autopsies: the Hisayama Study. J Am Soc Nephrol 18: 2135-2142, 2007.
(前高血圧症は腎動脈硬化のリスクを増加させる: 久山町研究「解剖検例での検討」)
- Doi Y, et al. Liver enzymes as a predictor for incident diabetes in a Japanese population: the Hisayama Study. Obesity 15: 1841-1850, 2007.
(肝酵素は日本人地域住民の中で糖尿病発症の危険因子である: 久山町研究)
- Kuroda J, et al. NAD(P)H oxidase p22^{phox} C242T polymorphism and ischemic stroke in Japan: the Fukuoka stroke registry and the Hisayama Study. Eur J Neurol 14: 1091-1097, 2007.
(日本人における活性酸素生成酵素NAD(P)Hオキシダーゼの膜因子p22^{phox}のC242T遺伝子多型と虚血性脳卒中との関連: 福岡脳卒中データベース研究ならびに久山町研究)
- Fujimi K, et al. Altered expression of COX-2 in subdivisions of the hippocampus during aging and in Alzheimer's disease: the Hisayama Study. Dement Geriatr Cogn Disord 23: 423-431, 2007.
(アルツハイマー病患者の海馬の各部位におけるCOX-2の発現は加齢とともに変化する)
- Shimazaki Y, et al. Relationship of metabolic syndrome to periodontal disease in Japanese women: the Hisayama Study. J Dent Res 86: 271-275, 2007.
(日本女性におけるメタボリックシンドロームと歯周病の関係: 久山町研究)

臨床・病理研究ユニット

●多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

平成19年6月から福岡脳卒中データベース(Fukuoka Stroke Registry; FSR)の登録業務を開始した。当初、九州大学病院、国立病院機構九州医療センター、国立病院機構福岡東医療センター、福岡赤十字病院の4施設で登録を開始し、12月から聖マリア病院(久留米市)、平成20年1月から新日鐵八幡記念病院(北九州市)での入力を開始している。また、九州労災病院と白十字病院での登録開始に向けての準備作業を行っている。平成20年2月末日での同意取得患者数は530例、入力完了患者数は431例である。



九州医療センタースタッフ

●脳梗塞におけるバイオマーカー探索、解析に関する共同研究

脳梗塞患者のより良い診断のための有用な血中バイオマーカーの探索を目的として、三菱ケミカルホールディングスとの共同研究を開始した。

●脳梗塞急性期における有害事象に関する疫学調査

田辺三菱製薬株式会社との共同研究として、脳梗塞急性期における腎障害を中心とした有害事象発現の危険因子を探索する研究を開始した。

●福岡県糖尿病患者データベース研究

福岡県下の糖尿病患者1万人を対象に久山町健診をモデルとして、食事・運動・心の健康・認知症の調査、血液尿検査、遺伝子解析、予後調査を行うFukuoka Diabetes Registry (FDR)を準備中。